

「さんべで夏体験！！バウムクーヘンづくり」

1 趣 旨

- ・夏の三瓶の自然に触れながら、アウトドアクッキング等の体験を通して、三瓶地域の自然や体験活動に興味、関心を持ってもらう。
- ・親子で一緒に活動することにより、親子で活動する楽しさを知ってもらう。
- ・家族同士で関わりながら活動することにより、家族間の交流を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ① 平成 30 年 6 月 2 日 (土) ～3 日 (日) <1 泊 2 日>
 ② 平成 30 年 6 月 16 日 (土) ～17 日 (日) <1 泊 2 日>
 ② 平成 30 年 7 月 21 日 (土) ～22 日 (日) <1 泊 2 日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象 小学生とその家族 (幼児も可)
- (5) 参加者 ①70 名 (子ども 38 名 大人 32 名) 募集 100 名
 ②75 名 (子ども 44 名 大人 31 名) 募集 100 名
 ③85 名 (子ども 47 名 大人 38 名) 募集 100 名

(6) 日程・内容

	12:45	13:00	14:00	16:30	17:10	19:00	21:00	22:00
1 日目 (土)	受付	はじまりの会	【バウムクーヘンづくり】 —他の家族とも交流を深めながら、おいしいバウムクーヘンを焼き上げよう—	夕べのつどい	夕食・入浴	【ファイヤーストーム体験】 —キャンプファイヤーを囲み、火のついたトーチを掲げたり、みんなでゲームをしたりして交流を深めよう— ※雨天時は室内で「キャンドルのつどい」	就寝準備	就寝
2 日目 (日)	起床	朝のつどい・清掃	朝食・清掃	退所点検	おわりの会	退所後は？ ・近隣の牧場見学 (職員が引率します) ・三瓶自然館サヒメル見学 (割引券あり) ・埋没林公園見学 (割引券あり) ・三瓶こもればの広場木工館で創作活動 ・さんべ温泉 (割引券あり) ・世界遺産石見銀山見学 ・早めに帰宅 などなど、ご都合に合わせてプランニング!!		

3 事業の特色

①プログラムデザインのポイント

本事業は、「家族内」、「家族間」の関わり の充実をテーマとした。そこで、コミュニケーションを取りながら協働して作業できる、バウムクーヘン作りを中心の活動とした。家族内や他の家族としっかりと交流しながら活動できるよう、役割分担や焼き具合など話し合っ て決めてもらうようにした。夜は大人数ならではのプログラムとして、ファイヤーストームを行った。火を囲んで楽しいゲームをすることで、他の家族との積極的な交流が生まれ、また、家族の夏の思い出となるようにした。

② 運営のポイント

家族同士で関わりながら活動できるように、はじめの会でのアイスブレイクは丁寧に時間をかけて行った。バウムクーヘン作りでは、2家族で1グループを構成し、役割分担や相談など、コミュニケーションを取りながら活動できるよう、「家族同士の関わりを促す」、「職員が必要以上に介入しない」というスタンスでの職員の説明方法や関わり方を意識した。

③ 広報のポイント

年度初めの事業であり、各市町村教育委員会から新学年の児童数の情報がなかったため、昨年度の数を参考とし、多めに予備を入れて小学校にチラシを配布した。1年生の人数がわからないため、小学校2～4年生に配布することとした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	82	18	0	0
プログラム	75	22	3	0
運営	84	13	3	0
職員の対応	92	8	0	0

(2) 参加者の声

- ・他の家族とバウムクーヘンを作ることで、大人も子供も仲良くなることができるとてもよかったです。
- ・なかなか個人では出来ない体験を、子連れの家族にとって無理のない日程でプログラムしていただき、感謝しています。

5 成果と課題

《成果》

- ・今まで事業がなく、宿泊者も少ない時期に、多くの参加者に体験活動を提供することができた。また、ボランティアにとっても、ボランティアセミナー後すぐに当所での活動の機会ができ、自ら体験したバウムクーヘン作りの技術を生かす場にもなったことは大変有意義であった。
- ・初めの会でのアイスブレイクを丁寧に行ったことで、活動中の緊張がほぐれ、バウムクーヘン作りでは、同じグループの家族だけでなく、他のグループの家族とも交流し、楽しそうに活動している場面が見られた。キャンプファイヤーでも家族の枠を超えてみんなでゲームを楽しむことができた。

《課題》

- ・アンケートより「バウムクーヘンづくりの道具や野外炊飯場の設備が幼児には扱いにくい」との理由で「準備不足」との意見があった。運営側の、「用意された条件の中、参加者同士で協力し、工夫し、役割分担をして活動してほしい。」という意図が参加者に十分伝わっていなかったためである。活動の仕方の説明だけでなく、ねらいなども適宜参加者に伝えていくことが大切であると感じた。



複数家族で協力し合い、バウムクーヘンを作った。



仲良く味わった。



ファイヤーストームの様子。

(担当： 企画指導専門職 辻田 渉)